

全日本

花いっぱいだより

第40号

平成28年7月
全日本花いっぱい連盟



東京都調布市

花いっぱい運動事業「小さなスペースに花いっぱい」

花と緑の空間の創出 徳島市紹介

徳島市は、市の北部を流れる「四国三郎」吉野川とその支流が育んだ三角州に発達した、徳島県の県庁所在地です。年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれ、東部は紀伊水道に臨み、南部は山々の緑を背にした自然豊かな都市で、中央には本市の象徴ともいえるべき眉山が聳え、周囲を大小合わせて138もの河川が流れるといったように、水と緑とともに発展してきました。

このような特色を持つ徳島市では、目指す将来像を「心おどる水都・とくしま」と題した総合計画を定めており、その一施策である「花と緑の空間の創出」に、花いっぱい運動の推進が掲げられています。

その拠点施設として、とくしま植物園（面積43・71ha）を運営し、



花苗の育成

一般に無料開放しており、園内では、定期的に緑化イベントを行うとともに、園芸や花を活かした手工芸品作りといった講座を毎年で開催するなど、緑を取り入れた潤いのある生活を提案し、市民の緑化啓発に努めています。

また、「花と緑のまちづくり事業」として、町内会やコミュニティ協議会などの団体に花苗を助成し、公道に面しているなど公開性の高い場所に植栽していただくことで、市民協働による花いっぱいのもちづくりを推進しています。平成27年度は花苗配布・購入費の補助を合わせて、計28団体に助成を行いました。配布する花苗は、とくしま植物園の一角で栽培されており、イベント時には来場者にも提供し、花を育て慈しむ暮らしの一助とさせていただいております。

徳島市では、市街地の河岸を公園として整備し緑の保全に努めると



活動事例 その1

もに、日中はボランティア団体による周遊船を運行し、夜はデザイン公募によるLED作品で彩るといった企画も行っています。これからの花と緑鮮やかとなる季節、「心おどる水都・とくしま」へのご来訪を、心よりお待ちしております。



活動事例 その2

調布市花いっぱい運動 調布市紹介

調布市は、東京都のほぼ中央に位置し、新宿から特急で15分と都心からのアクセスが良い街です。市内には国道20号線（甲州街道）、京王線が東西に走り、これらを中心に市街地が形成され、市の西部には、FC東京のホームスタジアムである味の素スタジアムもあり、市民のスポーツ拠点となっています。

地形的には、武蔵野台地の南部に位置しており、市の北部に武蔵野の面影を残す深大寺の森、南部にはゆ

るやかに流れる多摩川など、豊かな自然に恵まれています。

市では、こうした豊かな緑を守り育てるため、「緑の基本計画」において、将来像を「庭園のまち 調布」と位置づけ、地域の緑を豊かにすることを目的として花いっぱい運動に取り組んでいます。

平成23年度までは「花いっぱい運動」と「緑と花の運動」の2つの事業を展開していましたが、平成24年度から市民の方々が参加しやすく親しまれる制度へと見直し、新しく「花いっぱい運動事業」をスタートいたしました。

当初、登録団体は32団体でありましたが、現在は55団体になり、徐々に市内に広がってきております。

市内の花いっぱい運動では、自治会の方がそれぞれの地域にある公園などで活動したり、有志のグループが駅前の空いているスペースを利用したり、保育園の敷地でその保育園



色々な春の花



色鮮やかなあじさい

に通う子どもの保護者が活動を行ったりと、市民による様々な活動が展開されています。

また、東日本大震災で津波被害にあった石巻市において、がれきの中から咲いた一輪のひまわりを「ど根性ひまわり」と名付け、震災を風化させないため、種を受け継ぎながら毎年咲かせているプロジェクトがあります。昨年から調布市内においてもその取組に参加しています。

今後、調布市では、味の素スタジアムや周辺施設において、2019年にラクビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定となっています。これらの世界的なイベントの開催に向け、更に花いっぱい運動の活動を広げ、世界のみなさまを気持ちよくお迎えできるように取組を進めていきます。



平成26年6月に整備されたジャカラダ遊歩道

熱海市は、温泉が豊富なだけでなく、温暖で風光明媚な固有な風土から、遠く江戸時代には、徳川家康公

「長期滞在型の世界の保養地」にふさわしい花のまちを目指して熱海市紹介



昨年咲いた「ど根性ひまわり5世」



糸川のブーゲンビリア

2014年6月には、「特化すべ

が逗留したり、明治時代からは東京の奥座敷と言われ、多くの文豪に愛され、逗留あるいは居を構えたことにより、ここ熱海からいくつもの文学作品が生まれていきました。

そのような時代背景の中、高度経済成長時代には、新婚旅行のメッカ、団体旅行中心の温泉地として発展してまいりました。

2011年からは、魅力やイメージを高め、本質的に価値を上げる情報発信ができるよう、シテイプロモーションに取り組んでいます。

熱海市では、2030年を最終目標年度として「長期滞在型の世界の保養地」にふさわしい花のまちを目指すため、花木を中心とした花のまちづくりを行い、花木、草花の中から「特化すべき花木」を選定し、熱海を代表する花の名所や散策ルートを設け、重点的に整備・維持管理を実施し、さらに市民・企業・行政が一層協力し合える体制づくりを進めています。

また、熱海市の離島「初島」には、約250本のプロテアが植栽されており、本州でこの規模で植栽されているものはありません。

このように、おもてなしの心と歴史と文化・温泉、そして彩り豊かな「オンリーワンの花木」が訪れる人を癒し、「ここだけ」の思い出づくりを提供できるよう、魅力的な花のまちづくりを推進し、「長期滞在型の世界の保養地」にふさわしい花のまちを目指しています。

ジャカラダ遊歩道には、2カ所の花壇を設け、市内各所の花壇とともに、ボランティアによる植栽を行っています。

また、熱海市の離島「初島」には、約250本のプロテアが植栽されており、本州でこの規模で植栽されているものはありません。

このように、おもてなしの心と歴史と文化・温泉、そして彩り豊かな「オンリーワンの花木」が訪れる人を癒し、「ここだけ」の思い出づくりを提供できるよう、魅力的な花のまちづくりを推進し、「長期滞在型の世界の保養地」にふさわしい花のまちを目指しています。



初島公園のプロテア

手づくりで「人」づくり「街」づくり「花」づくり。

株式会社日本ヴォーグ社



【日本ヴォーグ社とは】

当社は昭和29年に編物手芸図書の専門出版社として創業いたしました。

一つ目の柱は、手づくりに関する書籍や定期刊行誌を年間120点以上出版しております。

もう一つの柱は、手づくりに関する教育事業で、日本全国に6万人あまりの手づくり講師と共に日々手づくり、手芸の楽しさを伝えております。

【押し花で花いっぱい】

花いっぱい連盟との関わりは、当社のクラフトアイテムの中でも人気の「押し花」でご縁をいただき、連盟の理念である「花をいっぱいにして、社会を美しく、明るく、住みやすくする」に賛同。日本ヴォーグ社が運営する押し花団体「ふしぎな花俱樂部（指導者数全国2万5千人）」として参加させていただいてお



ります。

2年に1度開催される、押し花の大会「世界押し花絵芸術祭」(本年は日光東照宮・御鎮座400年記念として7月5日〜7月10日まで開催)では毎回連盟から後援などもいただいております。

押し花会員の皆様は、地域における押し花活動と同時に、花を育てる活動もしており、花を育つ花いっぱいにして、手づくりで街づくり、人づくりを行っております。

【押し花とは】

皆さんは押し花と言うとどのようなイメージをお持ちでしょうか？

子供のころに摘んだよつ葉のクローバー？ 新聞紙に思い出とともに挟んだセピア色の押し花？ 色々なイメージがあると思います。

現在では、花本来の持つ色そのままをおし花にする技術が確立し、押し花絵で絵画のような表現が出来たり、小物にしてプ

レゼントしたり、たくさんの方に新しい押し花が楽しまれていきます。

押し花の楽しみは無限大です。作品を作り上げることはもちろんのこと、押し花絵の絵具の代わりとなる「花」を育てることも楽しみの一つですし、散歩をしながら道端に咲いている草花で四季を感じることも素敵です。そしてなにより、同じ趣味も持つ人と人との交流は最高の楽しみの一つと言えると思います。

私たちは押し花を通じてこれからも花いっぱい活動を応援し、日本全国に花があふれ、社会が笑顔で明るくなるお手伝いが出来ればと思っております。

花いっぱい連盟の会員の皆様に、新しい押し花の世界をご紹介します。介出来る時が来れば嬉しいと思います。



事務局だより

●新加盟

広島県 尾道市
大阪府 泉佐野市
が加盟されました。

●平成29年度「第57回 全日本花いっぱい 松本大会実行委員会」が発足しました。
【開催日】
式典は29年6月17日(土)に決まりました。



松本城西花壇 6月16日約50名のボランティアによる植え込み作業

第40号

発行日 平成28年7月
発行 全日本花いっぱい連盟事務局
長野県松本市中央1-18-11
Mフロンティア
TEL 026313213042
FAX 026313216511